

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K11059

研究課題名(和文) 総排泄腔遺残症患者の母子関係の特徴と家庭における性教育との関連

研究課題名(英文) Characteristics of mother-daughter relationships and sex education at home in patients with persistent cloaca.

研究代表者

川田 紀美子 (Kawata, Kimiko)

香川大学・医学部・教授

研究者番号：70709592

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：女子大学生を対象とした、母娘関係と家庭内性教育、性的リスク対処意識、娘の性行動との関連についてアンケート調査を行った。その結果を、総排泄腔遺残症に関する全国規模の患者交流会と市民公開講座(Zoom開催)の中のランチョンセミナー「いつかお子さまと性的話をするために…」で発表した。また、セミナーの反応を把握するためにアンケートを行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義  
母子関係の特徴が家庭内性教育の実情にどのように影響を及ぼしているかについて理解することができ、セクシャルヘルス向上における母子関係の重要性を提言することができた。また、研究成果を総排泄腔遺残症患者やその家族と共有することができた。

研究成果の概要(英文)：We conducted a questionnaire survey of female university students regarding the relationship between mother-daughter relationships, domestic sex education, sexual risk coping awareness, and the students' sexual behavior. The results were announced at a luncheon seminar entitled "Someday talking about sex with children ..." in a nationwide exchange meeting on cloaca residual disease patients and a public lecture (held by Zoom). We also conducted a questionnaire to understand the reaction to the seminar.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：母子関係 家庭内性教育 総排泄腔遺残症

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

総排泄腔遺残症は、女兒にのみ発生する、胎生期に尿道・膣・直腸が分離不全を来し、排泄孔を一つしか持たない先天的難治性稀少泌尿生殖器疾患である。出生直後からの複数回の手術により生殖器に後遺症状を伴うため、思春期には恋愛や性交、妊娠等に支障を来す場合が多い。そのため患者には性に関する特別な配慮が必要であるが、セクシャルヘルスへの支援には母親の役割が不可欠であり、本研究結果より母親を含めた支援システムの構築を目指すことが目的であった。初年度より COVID-19 蔓延の影響を受けたことより、まず健常者を対象に親娘関係と家庭内性教育との関連を調査し、その結果を基礎資料として、総排泄腔遺残症患者とその家族と共有することにした。

## 2. 研究の目的

- ①女子大学生を対象に、母娘関係と家庭内性教育、性的リスク対処意識、娘の性行動との関連について検討し、基礎資料とする。
- ②女子大学生を対象に、父娘関係と家庭内性教育実施との関連について検討する。
- ③総排泄腔遺残症患者とその家族が、家庭内性教育における親子関係の重要性について理解する。

## 3. 研究の方法

### ①②

- 1) 調査期間：2019年6月から8月まで
- 2) 対象：大学に所属する3、4年生で20歳以上の女子学生
- 3) 調査方法

研究協力の同意が得られた4つの大学と12の大学サークルに、質問紙配布が可能な日時、回収方法・場所を相談し、決定した日時に研究者が直接訪問した。対象となる女子学生に対して、調査の目的、方法、個人情報保護、参加不参加が自由であることを書面と口頭で説明した。本研究への参加に同意が得られた場合、自記式質問紙と回収用封筒を配布した。回答した質問紙は回収用封筒に入れて、回収箱や郵送で回収した。

### 4) 調査項目

- (1) 基本属性
- (2) 性行動の実態
- (3) 家庭内性教育の内容

先行研究（久保ら，2009）を参考にして14項目、家庭内性教育の実施時期は先行研究（久保ら，2009）（小倉ら，2010）を参考にして8項目で回答を求めた。

- (4) 母娘関係尺度（2007年に藤原、伊藤ら）
- (5) 性的リスク対処意識（2006年に草野）
- (6) 娘の心のなかの父娘関係尺度（春日によって2005年）

### 5) 分析方法

すべての回答は数値化し、記述的統計量を算出した。「母娘関係尺度」「性的リスク対処意識」「父娘関係尺度」に関しては、因子構造を確認する目的で因子分析を行った（IBM SPSS ver.25 使用）。その後、各因子の得点を標準化得点に変換し、クラスター分析を実施した（HAD16.0（清水，2016）使用）。クラスター数については、数を増減しながら、各クラスター内の因子得点の特徴およびクラスター間の差異を確認して決定し、それぞれのクラスター名を命名した。

クラスター各群における各得点分布の差を検討するために、fisher の正確確率検定または Kruskal-wallis 検定と多重比較（bonferroni 調整）を行った。

### 6) 倫理的配慮

対象者には、アンケートは無記名であり個人の特定はされないこと、参加は自由であること、参加の有無で対象者に利益や不利益がないこと、アンケートの提出をもって本研究の参加に同意したものとすること、研究参加に同意した後でもアンケート提出までは同意を取り消すことができることを書面と口頭により説明した。アンケートにプライバシーに関する質問が含まれているため、質問用紙は回収用封筒に入れて封を閉じた状態で回収した。

本研究は九州大学医学系地区部局臨床研究倫理審査委員会の許可を得て実施した。

③2021年2月に、総排泄腔遺残症に関する全国規模の患者交流会と市民公開講座（Zoom開催）で、ランチョンセミナー「いつかお子さまと性の話をするために…」を開催し、その後webアンケート調査を実施した。アンケート調査については、事前に九州大学医学系地区部局臨床研究倫理審査委員会の許可を得た。

#### 4. 研究成果

①②の結果についてはランチョンセミナースライド参照。

③ 2021年2月ランチョンセミナー「いつかお子さまと性の話をするために…」を開催し、女子大学生を対象とした調査の概要と結果を紹介し、結論を患者家族へのメッセージとして提言した。また、セミナーの反応を把握するためにアンケートを行なった。アンケート集計結果は表に示す。

ランチョンセミナーの率直な感想（要約，n=30）
<b>患者</b> 母子関係の人間関係はわかりやすく自分もそうだったと振り返ることができた。 自分が親から病気の話をされた時、ショックな言い方をされたので、同じような気持ちを他の子には味わって欲しくないの、親世代には沢山見てほしいと思いました
<b>患者の家族</b> SEXについても学ばせていただき、学校等でも同じ事を伝えてくれたらいいのになと思いました。 娘にもそろそろ自分の体はとても大切に、彼氏になる人には理解を求めていくように説明したいなと思います。
<b>医師</b> あまり詳しくない分野で勉強になりました。 とても客観的に物事を捉えておられ、ややもすると羞恥心が先走ったり感情的になってしまいがちな問題に対しても、いい意味で距離をもって対応するヒントになったかと思います。 自分は苦手な話題なので、ビデオ等で必要な方に見てもらえると良いと思いました。 とても分かりやすかった 現在、気付いていない問題がこれから生じてくる可能性があることに気付き心配。 大変勉強になりました。つい自分にもあてはめて考えてしまいました。 考えるうちに親子関係は本当に難しく、「理想的」親子などいるのだろうか、などと今回の講演の主旨とは少し違う方向に思いを巡らせながら検討の母集団が学生というバイアスはあるのかなとは思いましたが、若い女性の考え方の一端が聴けて参考になりました。 総排泄腔遺残症患者に関連した内容ではなかったのが残念でした。 学会発表のような印象を受けたので、患者さん側の参加者のためには、統計解析結果は簡潔にして、患者さん方の今後に生きるような情報提供が多い方がいいのではないかと感じました。 統計手法にやや傾倒しており、一般の方にわかりにくいかも。グラフ、数字よりも、絵や写真が良いかも 一般の専門学校生、短大生にもアンケートを取った方がいいと思います。
<b>看護職（看護師・助産師・保健師）</b> 疾患の有無に関わらず、親子…母娘・父娘(息子)関係性は、身体的精神的全てにおいて、大きな影響を及ぼす、子供が成長するにあたり大切な関係性と改めて感じました。 親子関係について客観的な情報が得られて有意義であった。 自分の家族に当てはめて考えてみました。母親と父親の子供たちへの接し方が、その後の子どもたちの生き方、生(性)への考え方にまでつながっていることが大変興味深かったです。この調査結果は今後の思春期教育に大変有用で、性教育にしり込みしがちな親への啓発にも一役買う事でしょう。正しい情報をいつだれが伝えるか、日本の教育に切り込めることを願っています。 一般的にはという結果をこの疾患の方に置き換えればよいと解釈した。 母子関係、父子関係はとても性教育に大事であり、研究結果としてはとても大切な知識と思いました。 親は、子どもが葛藤に付き合いながら自分の体に向き合う支援をしている現状です。 前半の講義は、病態や治療、今後の経過のことが主だったが、ランチョンセミナーは普段の生活の中で大切にしなければいけない、親子関係の築きかただったと思う。 貴重なお話をありがとうございました 非常に役に立つ情報で、勉強になりました。 家庭内性教育は今後、子供が成長する上でとても大切なことなので、いつ話をするかタイミングが分かって勉強になりました。 家庭内での具体的な性教育方法がわかればお聞きしたいです。 研究結果をふまえた講話でとても勉強になりました。ありがとうございました。 もっと具体的に知りたかった。それぞれのグループをどのように分けたか、その過程などを。 一般と疾患を抱える人での違いについても考えていく必要があると思った。
<b>その他の職種</b> アンケートの母娘関係のタイプ別調査結果は興味深かった。母娘関係が性教育を進める上で重要で、父親との会話も必要ということ。親としてどの時期に話をすればいいかは参考になった。 家庭内での性教育を母親と父親の関係、類型で説明してもらって興味深いものでした。



こどもは親子関係の中から健康行動を身につけます

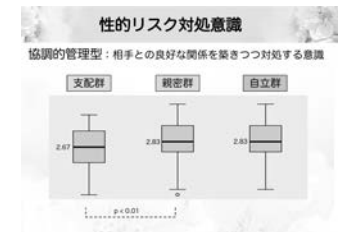
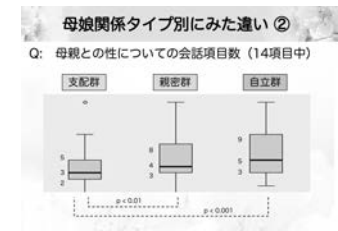
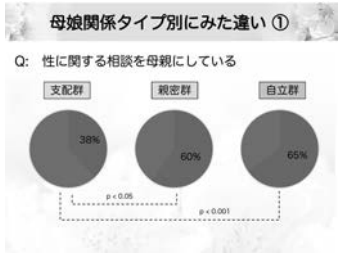


### 20歳以上の女子大学生329名を対象にした無記名アンケート調査の紹介

母娘関係と

- ①家庭内性教育の実施
- ②性的リスク対処意識
- ③娘の性行動

にはどのような関連があるか検討した



- ### 3群で差がなかった項目
- 娘の性交渉経験率
  - 性感染症罹患率
  - 中絶経験率
  - 性的リスク対処意識「自己管理意識」

### 20歳以上の女子大学生286名を対象にした無記名アンケート調査の紹介

父娘関係と家庭内性教育の実施にはどのような関連があるか検討した

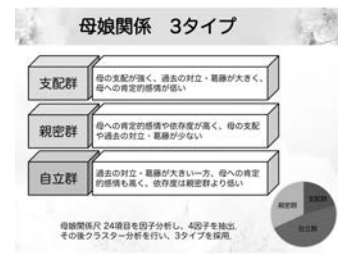


### 健康の一面面としてのセクシャルヘルス

日本人女性の平均初交年齢は、19歳前後 (約7割は学生)  
 出産希望年齢は、約30歳  
 性感染症は全体として横ばいから増加、20代の感染者は増加

自身のライフプランにあわせて、望まない妊娠や性感染症の予防が大事

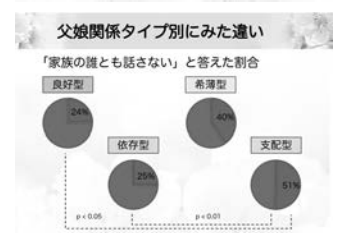
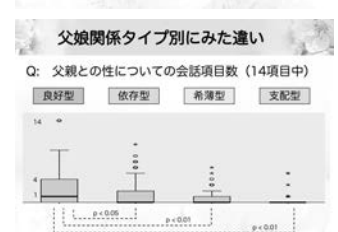
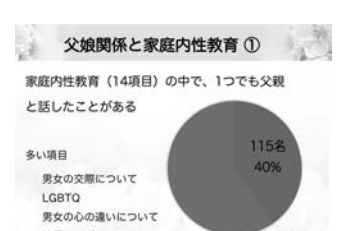
性には「体の性」「心の性」「好きになる性」がある  
 性感染症に関しては、異性間以外の性交渉にも留意する



### 家庭内性教育14項目

月経の仕組みについて(月経のメカニズムや周期など)  
 月経の処理方法について(ナプキンや着るもの、処理方法など)  
 男女の体の違いについて(つくろや機能の違いなど)  
 男女の心の違いについて(考え方や意識の違いなど)  
 男女の交際について(異性を尊重する姿勢や機軸意識など)  
 恋愛観の心の安定について  
 性交の方法について  
 避妊方法・避妊具の使用方法について  
 人工妊娠中絶について  
 性感染症の予防方法について  
 様々な性の在り方について(LGBTQなど)  
 性暴力、デートDVについて  
 メディアから性情報について(アフィリエイトやSNSなど)  
 性に関する倫理や道徳について(運動交際、風俗に対する認識についてなど)

回答が多い項目: 少ない項目



### 提言

- ◆娘が認識する肯定的な親子関係は、家庭内性教育をすすめる上で重要
- ◆対立や葛藤を経験しても、乗り越える
- ◆父親と娘との会話も重要
- ◆「学校で性教育を学習した時」に話をしてみる

### 家庭内性教育の実施時期

回答: 8項目

初めに生理が来た時	母親から話してくれた時
メディアなどで情報を得た時	学校で性教育を学習した時
初めてパートナーができた時	初めて性行為をした時
いつかわからないが話したことがある	話したことがない

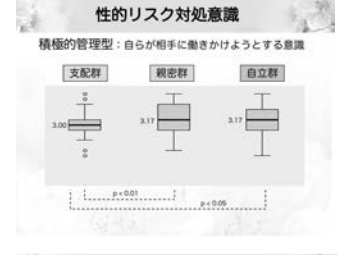
月経については「初めて月経が来た時」、デートDVやLGBTQについては「メディアなどで情報を得た時」、性感染症予防は「初めて性行為をした時」、避妊方法については「初めてパートナーができた時」が最も多く回答。娘のライフステージに合わせて実施。家庭内性教育の全項目において、その実施時期に「学校で性教育を学習した時」が選択されていた

### 母娘関係タイプ別にみた違い ③

#### 性的リスク対処意識

性的関係におけるリスクを避けるための適切な行動がとれる自己管理能力の認知

協調的管理型: 相手との良好な関係を築きつつ、性的リスクに対処する意識  
 積極的管理型: 自らが相手に働きかけようとする意識  
 自己管理意識: リスクを避けるための適切な行動がとれる自己管理能力の認知

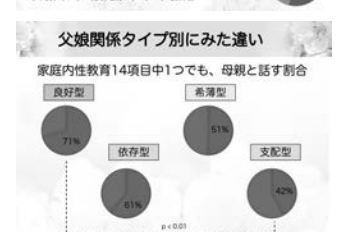
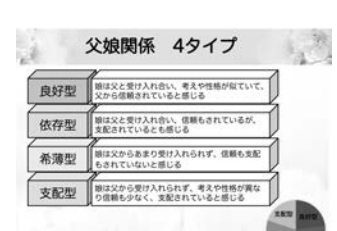


### 母娘関係と家庭内性教育

自立群: 母親との過去の対立・葛藤を青年期の母娘関係の特徴の一つ経験しているが、現在は肯定的感情を抱いており、関係が修復されている。家庭内性教育の実施の多さに影響を与えていることが示唆された

娘が「肯定的感情を抱き、相談しやすい」と認識する関係性。家庭内性教育の実施の多さに影響を与えていることが示唆された

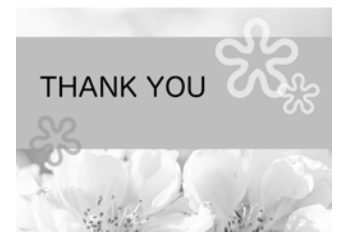
母親に肯定的感情を持つ良好な関係性と、性的リスク対処意識において、娘が相手とのコミュニケーション能力をもつことに関連がみられた



### 父娘関係と家庭内性教育 ②

- 「初めて性交渉をした時」に父と話した人はゼロ
- 話す項目数は「良好型」が最も多く、「支配型」が最も少なかった。また「希薄型」では「両親から話してくれた時」が少なかった

娘が「父親に受け入れられ、共感し信頼し合い、自身の意志が尊重されている」と認識する関係性。家庭内性教育の実施の多さに影響を与えていることが示唆された



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Chisato Yamanaka, Kimiko Kawata	4. 巻 17(23)
2. 論文標題 Characteristics of Mother and Daughter Relationships and Sexual Risk-Coping Consciousness among Japanese Female University Students.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph17238795	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Rumi Kawahara , Miyuki Obara , Shiori Fukushima , Chisato Yamanaka , Yukari Noguchi , Kimiko Kawata.
2. 発表標題 Father-daughter relationships in relation to domestic sex education in female college students.
3. 学会等名 the 24th East Asian Forum of Nursing Scholars. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山中ちさと, 川田紀美子.
2. 発表標題 女子大学生の母娘関係と、家庭内性教育の獅子位状況および性的リスク対処意識との関連.
3. 学会等名 第34回日本助産学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮田潤子, 濱田裕子, 藤田紋佳, 森口晴美, 川田紀美子, 小幡聡, 桐野浩輔, 林下里見, 三原優希, 植木, 慎悟木下義晶, 加藤聖子, 田尻達郎, 田口智章
2. 発表標題 Web会議システムの利用による 総排泄腔遺残症/外反症における ピアサポートの新たな可能性
3. 学会等名 日本小児外科QOL研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	牛島 廣治 (Ushijima Hiroshi) (10091068)	日本大学・医学部・上席研究員  (32665)	
研究分担者	宮田 潤子(秋吉潤子) (Miyata Junko) (20380412)	九州大学・医学研究院・講師  (17102)	
研究分担者	濱田 裕子 (Hamada Yuko) (60285541)	第一薬科大学・看護学部・教授  (37107)	
研究分担者	野口 ゆかり (Noguchi Yukari) (70304847)	聖マリア学院大学・看護学部・准教授  (37125)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------